ジャスミン・アラカワ

北海道生まれ。東京芸術大学ピアノ科卒業。在学中、芸大室内楽定期演奏会、京都国際音楽祭等に出演。丸山滋、植田克己各氏に師事。ハイメス音楽コンクール優勝、奨学金を得て、アメリカのインディアナ大学に留学。著名な音楽教育者、ナディア・ブーランジェの最後の弟子であるエミール・ナウモフのもとで研鑽を積み、２００７年に音楽修士号 、２０１３年に音楽博士号を取得。

渡米後、ニューヨークのカーネギーホール、ジュネーブのヴィクトリアホール、パリのサル・ガボーを始め、北米を拠点にヨーロッパ、中南米、アジア各地でソリスト、室内楽ピアニストとして多彩な演奏活動を繰り広げる。２０１６年にアメリカのMSR Classics レーベルからリリースされたソロCDは数々のメディアで取り上げられ、グラモフォン誌（イギリス）より「個性のきらめく演奏‥‥ホロヴィッツを彷彿させる」と称賛される。ジャン・フランセ国際音楽コンクール（フランス）第３位、スペイン・ラテンアメリカ音楽コンクール（アメリカ）室内楽部門優勝。２００４年、ニューヨークでアリシア・デラローチャのマスタークラスシリーズを選抜受講。２０１１年には中国人ピアニスト、ラン・ランの代役ピアニストとしてアムステルダムにてガーシュインのラプソディインブルーを演奏。同年パリにて東北大震災津波援助コンサートに参加、ファッションデザイナーのジュンコ・コシノ氏と作曲家上林裕子氏の共同制作の舞台に出演。

室内楽の分野でも盛んに活動し、カナダのバンフセンターでコラボラティブ・ピアニストを務めた他、これまでにチェリストのギャリー・ホフマン、コリン・カー、フルーティストのジャン・フェランディス、マリーナ・ピッチニーニ、クラリネッティストのジェームス・キャンベル、そしてペンデレツキ・カルテット等の著名なアーティストと共演。２０１７年夏にアメリカ、パルマ・レコードより、ルトスラフスキーのヴァイオリンとピアノの為の作品を収録したアルバムをリリース。

これまでに、アメリカ、カナダ、ドイツ、ペルー、ブラジル、中国の音楽大学にてマスタークラスを多数開催。北海道国際音楽協会（ハイメス）アーティスト会員。ウェスタンイリノイ大学、サウスアラバマ大学で教鞭を執った後、２０１７年よりフロリダ大学 (University of Florida) 音楽学部ピアノ科主任。毎年６月に開催されるフロリダ国際ピアノフェスティバルのディレクターも務める。

ウェブサイト　www.jasminarakawa.com